

## 陸前高田発

### 県内初「津波避難階段」完成

海沿いの住民が高いところにある道路に逃げるための「津波避難階段」が陸前高田市に完成しました。震災後、県内初となる施設で



「津波避難階段」は地域の要望を受けて三陸国道事務所が整備したものです。陸前高田市気仙町の要谷地区には震災前77世帯が暮らしていて、津波はこの階段のすぐ手前まで迫りました。地区の高台には国道45号があり、東日本大震災の際には住民が急な斜面をよじ登って避難しましたが、危険が指摘されていました。高さ8.6メートルある斜面に完成した避難階段はコンクリート製でソーラー式の照明灯も設置されています。県内での津波避難階段の設置は震災発生後初めてで三陸国道事務所では県内の国道45号や三陸沿岸道路の斜面あわせて9か所での設置を計画しています。(3/25 ニュースエコー)

## 震災の教訓を未来に

### 大船渡に「津波記憶石」建立



震災の教訓を未来に残そうと、大船渡市三陸町に「津波記憶石」と名づけられた石碑が建立されました。「津波記憶石」は三陸鉄道南リアス線、綾里駅の前に設置され、26日除幕式が行われました。綾里地区は津波で死者、行方不明者31人の被害が出ました。日時計をモチーフにした直角三角形の石碑には、大船渡の津波研究者、故・山下文男さんが訴えた「津波てんでんこ」の教えが刻まれています。建立した「全国優良石材店の会」では、北海道から千葉までの沿岸に500の津波記憶石を設置する計画です。(3/26 ニュースエコー)

## 震災遺構を教訓に

### 大槌町の旧庁舎「一部保存」



津波により壊滅的な被害を受けた大槌町の旧役場庁舎について、町は建物の一部を「震災遺構」として保存する

方針を明らかにしました。これは記者会見で碓川豊町長が正式に表明したものです。碓川町長は「津波の教訓を伝えるため保存することが重要」とした上で、解体を望む遺族感情にも配慮し、維持費を抑える必要もあると「一部保存」の理由を説明しました。建物の真ん中部分を残す形となり、町では新年度から復興交付金の活用により調査、設計を進める予定です。国との協議が順調に進めば年末にも、保存に向けた工事が始まることとなります。(3/28 ニュースエコー)

## 三陸鉄道

### 南リアス線で津波避難訓練

来月一部区間で運行を再開する三陸鉄道南リアス線で、津波を想定した避難訓練が行われました。訓練には三陸鉄道の職員や、沿線の住民など20人余りが参加しました。



(3/28 ニュースエコー)

## 陸前高田発

### さんりく元気ラジオ



27日は「陸前高田災害FM」の阿部裕美さんが3/23(土)にグランドオープンを迎えたばかりの「陸前高田未来商店街」(陸前高田市竹駒町)の話題を生中継でお届けし

ました。「陸前高田未来商店街」は市内では最大規模の商店街。一部の店は既に営業を再開していましたが、残る5店舗が入居する階建てのプレハブ3棟が完成。この春からは11の店が軒を連ねる商店街として正式にスタートしました。



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122